

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 6	ハダニ類, アザミウマ類に対するフルキサメタミド乳剤 の防除効果
-----	---

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

フルキサメタミド乳剤の茎葉散布はアザミウマ類, ハダニ類に対して高い防除効果を示す。

普及対象：キク, イチゴ, キャベツ等生産者
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

フルキサメタミド乳剤は新規化合物（IRACコード：30）を有効成分とする薬剤である。この薬剤は近年、園芸作物のハダニ類, アザミウマ類, チョウ目害虫などを対象に農薬登録されたことから、キク, キャベツ, イチゴにおいて防除試験を実施し、その効果が認められたので、普及情報とする。

2 普及情報

- フルキサメタミド乳剤はキクのアザミウマ類に対し、対照薬剤のスピネトラム水和剤と比べ高い防除効果を示し（図1）、ハダニ類に対し、シエノピラフェン水和剤と同等の防除効果を示す（図2）。
- フルキサメタミド乳剤はイチゴのハダニ類に対し、対照薬剤のシエノピラフェン水和剤と同等の防除効果を示し（図3）、キャベツのネギアザミウマに対し、対照薬剤のトルフェンピラド乳剤と同等の防除効果を示す（図4）。

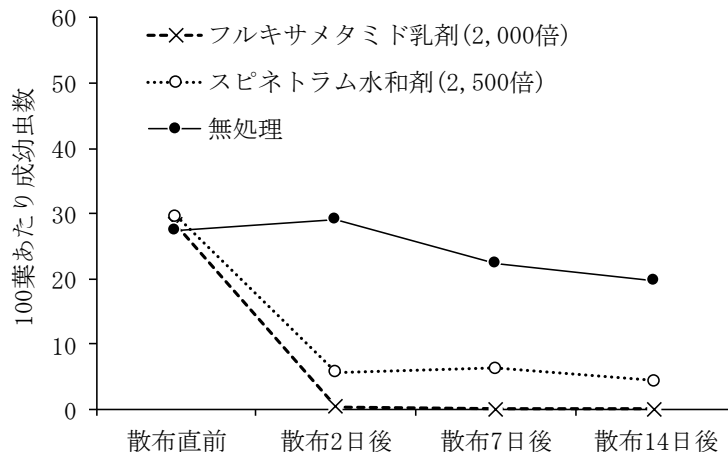


図1 キクのアザミウマ類に対するフルキサメタミド乳剤の防除効果（平成27年）

注1）耕種概要 品種：神馬 平成27年9月14日定植 9月26日に薬剤を200L/10a散布

注2）3反復、各区10株の上位10葉に寄生するアザミウマ類の成虫・幼虫を計数した

注3）対照薬剤はスピネトラム水和剤（商品名：ディアナSC）

3 利活用の留意点

- フルキサメタミド乳剤の商品名は「グレーシア乳剤」である。
- 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- 本剤は新規の作用機作を有する（IRACコード：30）。また、ミツバチ、マルハナバチへの影響が小さく、両種とも翌日の導入が可能である。一方、カブリダニなど天敵昆虫に対する影響は強いため、天敵利用栽培体系では影響しても問題とならない収穫終期などに使用する。
（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8246）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

新農薬による病害虫防除に関する試験(平成26, 27年度)

(2) 参考データ

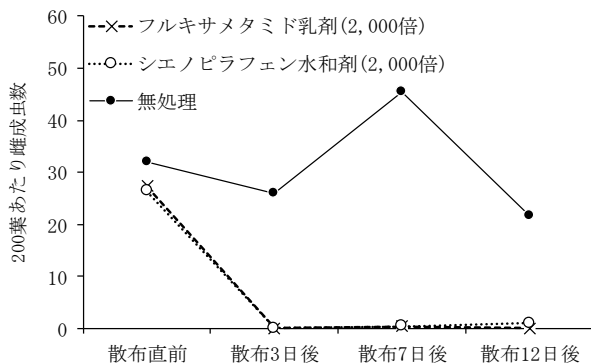


図2 キクのハダニ類に対するフルキサメタミド乳剤の防除効果(平成27年)

- 注1) 耕種概要 品種:深志の匠 平成27年6月9日定植 8月24日に薬剤を300L/10a散布
 注2) 3反復, 各区10株の20葉に寄生するハダニ類の雌成虫を計数した
 注3) 対照薬剤はシエノピラフェン水和剤(商品名:スターマイトフロアブル)

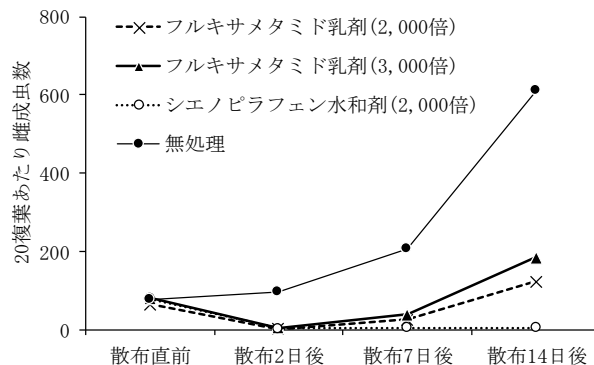


図3 イチゴのハダニ類に対するフルキサメタミド乳剤の防除効果(平成26年)

- 注1) 耕種概要 品種:もういっこ 平成25年9月19日定植 平成26年4月30日に薬剤を200L/10a散布
 注2) 3反復, 各区20株の1複葉に寄生するハダニ類の雌成虫を計数した
 注3) 対照薬剤はシエノピラフェン水和剤(商品名:スターマイトフロアブル)

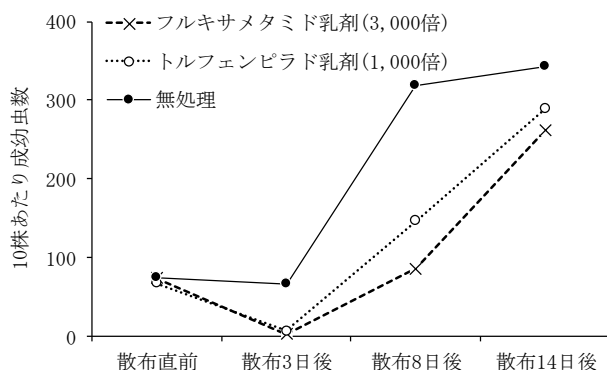


図4 キャベツのネギアザミウマに対するフルキサメタミド乳剤の防除効果(平成26年)

- 注1) 耕種概要 品種:初恋 平成26年5月14日定植 6月16日に薬剤を200L/10a散布
 注2) 3反復, 各区10株に寄生するネギアザミウマの成虫・幼虫を計数した
 注3) 対照薬剤はトルフェンピラド乳剤(商品名:ハチハチ乳剤)

(3) 発表論文等

- イ 関連する普及に移す技術 なし
 ロ その他 なし

(4) 共同研究機関 なし